

言葉を添える

私は一筆箋(いっぴつせん)を愛用しています。生徒の皆さんはあまり使わないかな。左下の写真は、先日北中生から花を受け取ってくださいだった中央公民館の小栗館長が、その時の写真と共に届けてくださった一筆箋のメッセージです。

一筆箋とは、手紙を書くほどではないけれど、届ける相手に言葉を贈りたいという時に使う小さな便箋(便箋)のことです。私は立场上、教育委員会を初めとする関係諸機関に書類やデータを提出することがあります。その時には、必ず言葉を添えて提出することになっています。データを提出するときにはメールのリード文で言葉を添え、紙ベースで提出する場合は、一筆箋に言葉を添えています。なぜそんな面倒なことをするのかと思う人もいるかもしれませんがね。答えは至って簡単！私がもらった時に言葉が添えてあるとうれしいからです。読まれたらゴミ箱行きの一筆箋でも、添えてあることが大切だと思うからです。

昨日、大湫町の文化祭実行委員会に参加しました。会場に着くやいなや、こんな言葉をかけられました。

「校長先生、素敵なた花をありがとうございました。今回は花だけでなく、生徒さんからのメッセージが添えられていて、一層うれしく思いました。スペースにぎっしり丁寧な文字で書かれていたことにも感動しました。」

言葉をかけてくださったのは一人ではありません。その場に集まった方で、北中生からメッセージ付きの花を受け取った方全員が異口同音に声をかけてくださいました。それを聞いた私は、言葉の力を感じました。花のプレゼントも確かにうれしいことですが、それに言葉が添えてあることで、北中生の思いがダイレクトに届いたような気がします。

言葉には、花のような華やかさはありませんが、花以上の力があると私は思います。その二つが重なった今回のプロジェクトf2には前回以上の感動が地域の人々の心に生まれたようです。すばらしい生徒会活動であり、温かな地域貢献だと、私は校長として大変うれしくなりました。

言葉を添えることは、地域貢献に限ったことではありません。日常生活で心掛けていけば、温かな人間関係が必ず生まれるはずです。教室で配付物を後ろの席の仲間に渡す時。提出しようと思っただけ職員室に足を運んだらお目当ての先生がいなかった時。貸してくれた人がいなくて、自分の代わりに近くの仲間に「返しておいて」と頼んだ時。まだまだあるでしょうね。ぜひとも、言葉を添えるということをやってみてくださいね。(十月七日 記)

安藤校長様 過日は、生徒会連会の皆様に、東館の皆さま、お返しをさせていただきます。誠にありがとうございます。生徒会の皆さま、よろしくお伝えいたします。
令和三年吉日 中央公民館 小栗